



# 第6回かながわ教育学講座

## 授業づくりを学ぶ①



10月14日(日)に第6回かながわ教育学講座を行いました。希望の校種や教科等により15会場に分かれ、所員が行う模範授業を通し、授業の組み立て方を学びました。受講者は児童・生徒役になり、積極的に発言したり、グループ学習を行ったりするなど、児童・生徒の目線でも授業について学びました。模範授業後には、授業づくりのポイントや現在求められている「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の工夫についての講義を受けました。第4回教育学講座「いま求められる授業」で学んだ内容と結びつき、授業のイメージが深まったと思います。12月に行われる「授業づくりを学ぶ②」では、模擬授業を行い、授業づくりについてさらに理解を深めていきます。

小学校 国語



小学校 社会



小学校 算数



小学校 理科



中学校・高等学校 国語



中学校・高等学校 地理歴史・公民  
(中学社会含む)



中学校・高等学校 数学



中学校・高等学校 理科



中学校・高等学校 外国語



中学校・高等学校 保健体育



中学校・高等学校 家庭科



中学校・高等学校 音楽



中学校・高等学校 工業・情報



特別支援学校



養護教諭



## 特別講座 2

10月14日の午前には、特別講座2を開講し、チャレンジコース受講者と受講希望をしたオープンコース受講者14名が参加しました。小学校、特別支援学校、中学校又は高等学校英語に分かれ、それぞれ講義を行いました。

### 小学校「小学校における学級経営」 講師：高柳 俊彦 教育指導員

教育人材育成課 高柳 俊彦 教育指導員が講師を務め、講義を行いました。

学級経営とは、「学級の教育活動を有効適切に行うように学級内の諸事を運営すること（広辞苑より）」と示されており、学習指導や生活指導を通して、児童の居場所をつくり、心身の成長を促すものでなくてはならず、「民主的なコーディネーターとしての教師」となることが大切であると話がありました。教室にはたくさんの児童がおり、どの子も支援を必要としていること、気になる様子が見られる児童だけでなく、一人ひとりの児童の頑張りや困っていることを理解し、認め励ますこと、児童理解を進めていくためには「聞く」から「聴く」へ転換し、耳と目と心で子どもの話を聞き、思いを受け止めていくこと等、講師の経験を交えた例を挙げながら講義が進められました。一人ひとりを大切にしていく中に、温かな学級が築かれるということ深く理解できたことと思います。



高柳 俊彦 教育指導員

### 特別支援学校「子どもの命を守る」 講師：神奈川県立中原養護学校 笠原 奈々 養護教諭



笠原 奈々 養護教諭

神奈川県立中原養護学校 笠原 奈々 養護教諭を講師に迎え、「子どもの命を守る」をテーマに「子どもの命を危険にさらさないようにすること」「子どもが、卒業後も健康で安全に過ごす意識をもち、行動できるようにすること」について講義がありました。

養護教諭に求められることとして「子どもの環境調整などといった安全の確保」「子どもの体調をみわたる確な一時救命措置をする」「正しい情報集約をする」「子どもたちの心のケア」等があり、勤務校での取組など具体的な事例から詳しく学ぶことができました。

最後に、「養護教諭は、子どもたちのこれから先の人生に影響を与える責任のある仕事であると共に、子どもたちが毎日笑顔で過ごせるように支えられる魅力的な仕事である」との希望あふれる話がありました。改めて教師という仕事の魅力とやりがいを感じたのではないのでしょうか。

### 中学校又は高等学校英語「コミュニケーション能力育成のためのスキル向上」

講師：神奈川県立国際言語文化アカデミア 江原 美明 教授  
Nguyen Thoa 助教

神奈川県立国際言語文化アカデミア 江原 美明 教授、Nguyen Thoa 助教を講師に迎え、「コミュニケーション能力育成のためのスキル向上」をテーマに講義を行いました。子どものコミュニケーション能力を育てるために心がけたいこととして、「間違いを恐れない協力的なクラスの雰囲気づくりをする」「英語で話す場数を踏み、即興力を育てる」「目標や予想



江原 美明 教授



Nguyen Thoa 助教

される子どもの反応を頭に入れ、スムーズな Teacher Talk をする」「言いたいこととキーワードを素早く決める訓練をする」「日本語を介さずにイメージと英語をマッチさせることに慣れさせる」「学んだことを自分の言葉で完結にまとめる習慣を身に付けさせる」といった授業の工夫についての講義がありました。これらを意識した授業を行う中で、教師自らがコミュニケーションを楽しみ、力を高めていく姿を見ることが重要であると学びました。子どもが英語でやりとりする楽しみを感じられる授業となるよう、今回の学びを指導案作りや授業づくりにいかしてほしいと思います。